

第 55 回

市政世論調査

(概要版)



令和 5 年

府 中 市

<目 次>

府中市市政世論調査について	1
回答者の概要	2
【住み心地】について	3
■府中市は住みよいところだと感じるか	3
【住まいの環境】について	4
■身近な住まいの環境についての感想	4
【生活の満足度】について	5
■現在の生活にどの程度満足しているか	5
【定住意向】について	6
■今後も府中市に住み続けたいと思うか	6
【市政に関する関心度】について	7
■市政にどの程度関心を持っているか	7
【市への要望】について	8
■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと	8
【防災の取組】について	10
■災害時に不安に思うこと	10
■防災への取組について	10
■防災活動への参加状況	11
■地域の防災活動で大事だと思うこと	11
■参加したい防災活動	12
【障害者に対する差別・偏見】について	13
■「不当な差別的取扱いの禁止」及び「合理的配慮の提供」の認知度	13
■伝わりやすい普及啓発方法	13
【こころの健康】について	14
■気を休められるタイミングや場所について	14
■悩みに耳を傾けてくれる人について	14
■悩みやストレスについて	15
■必要な自殺対策	15
【地域包括支援センター】について	16
■地域包括支援センターの役割や機能について	16
■相談がしやすいと思う方法	16

【証明書等のコンビニ交付とマイナンバーカード申請促進】	17
■コンビニ交付について	17
■マイナンバーカードの申請機会を増やすための取組	17
【環境に関する取組】	18
■環境に関する取組	18
【飼い主のいない猫対策】	19
■「飼い主のいない猫」対策の認知度	19
■『府中市「飼い主のいない猫」対策ガイドライン』の認知度	19
■「飼い主のいない猫」の問題に取り組んでいるボランティアの認知度	20
■「地域猫活動」の認知度	20
■「飼い主のいない猫」がもたらす問題	21
■有効だと思う「飼い主のいない猫」対策	21
■「飼い主のいない猫」対策への協力について	22
【府中の森市民聖苑】	23
■府中の森市民聖苑の利用状況	23
■葬儀の形態、会葬者について	23
■法要での府中の森市民聖苑の利用について	24
【国天然記念物「馬場大門のケヤキ並木」】	25
■ケヤキ並木について	25
■ケヤキ並木が国の天然記念物（文化財）であることの認知度	25
■通行頻度	26
■力を入れて欲しい取組	26
【スポーツ・運動】	27
■1年間に行ったスポーツや運動の頻度	27
■1年間での観戦したことのある府中市を拠点に活動するトップチームについて	27
■1年間に行ったスポーツに関するボランティア活動の有無	28
■障害者スポーツ（パラスポーツ）との関わり	28

府中市市政世論調査について

府中市で、毎年実施してまいりました世論調査も、今回で第55回となります。

この世論調査は、市政に対するご意見・ご要望をお聞きし、諸施策に対する市民の皆様の考えを把握することによって、今後の市政運営上の参考にさせていただくことを目的としております。

今回は市政全般のほか、「防災の取組」、「障害者に対する差別・偏見」、「こころの健康」、「地域包括支援センター」、「証明書等のコンビニ交付とマイナンバーカード申請促進」、「環境に関する取組」、「飼い主のいない猫対策」、「府中の森市民聖苑」、「国天然記念物「馬場大門のケヤキ並木」」、「スポーツ・運動」についてお聞きしました。

調査の方法

- | | |
|------------|--|
| (1) 調査地域 | 府中市全域 |
| (2) 調査対象者 | 府中市内の18歳以上の個人 |
| (3) 調査数 | 1,500人 |
| (4) 抽出方法 | 地点を用いた二段抽出法
(住民基本台帳の登録人口を11の地区に分け、その構成比により無作為に抽出する方法) |
| (5) 調査方法 | 郵送法（郵送配布、郵送・WEB併用回収） |
| (6) 調査期間 | 令和5年5月19日（金）～6月23日（金） |
| (7) 回収数（率） | 914人（60.9%） |

調査内容

- | | |
|----------------|------------------------------|
| 1 住み心地 | 10 地域包括支援センター |
| 2 住まいの環境 | 11 証明書等のコンビニ交付とマイナンバーカード申請促進 |
| 3 生活の満足度 | 12 環境に関する取組 |
| 4 定住意向 | 13 飼い主のいない猫対策 |
| 5 市政に関する関心度 | 14 府中の森市民聖苑 |
| 6 市への要望 | 15 国天然記念物「馬場大門のケヤキ並木」 |
| 7 防災の取組 | 16 スポーツ・運動 |
| 8 障害者に対する差別・偏見 | |
| 9 こころの健康 | |

注意事項 本書をご覧になる場合、次の点に注意してください。

- (1) 百分率(%)の計算は、小数点第2位を四捨五入して表示しています。
このため、単数回答(1つだけ選ぶ設問)に表示された百分率を足し合わせても100%にならない場合があります。また、複数回答(2つ以上選んでよい設問)の設問の場合、百分率を足し合わせると100%を超える場合があります。
- (2) 図、表に表示された「n」は、各設問に対する回答者数を表します。
- (3) 本書は、各調査内容における主設問のみを抜粋掲載している概要版です。

回答者の概要

1. 性別

	回答者数(人)	構成比(%)
男性	374	40.9
女性	473	51.8
回答しない	26	2.8
(無回答)	41	4.5

2. 年齢

	回答者数(人)	構成比(%)
18～29歳	102	11.2
30～39歳	107	11.7
40～49歳	148	16.2
50～59歳	194	21.2
60～69歳	152	16.6
70歳以上	201	22.0
(無回答)	10	1.1

3. 配偶者の有無

	回答者数(人)	構成比(%)
未婚	231	25.3
既婚(離別・死別含む)	669	73.2
(無回答)	14	1.5

4. 職業

	回答者数(人)	構成比(%)
事務職	112	12.3
専門・技術職	165	18.1
労務・サービス職	71	7.8
役員・管理職	59	6.5
商・工・サービス業	39	4.3
自由業	34	3.7
農林漁業	4	0.4
内職・パート・フリーター	120	13.1
主婦(家事専業)	128	14.0
学生	34	3.7
無職	129	14.1
(無回答)	19	2.1

5. ライフステージ

	回答者数(人)	構成比(%)
独身期	123	13.5
家族形成期	67	7.3
家族成長前期	78	8.5
家族成長後期・家族成熟期	162	17.7
高齢期	103	11.3
高齢者世帯	171	18.7
その他	181	19.8
(無回答)	29	3.2

6. 地区

地区名	総人口(人)	対象者(人)	調査数(人)	回収数(人)	回収率(%)	構成比(%)
紅葉丘文化センター	22,786	19,089	130	80	61.5	8.8
白糸台文化センター	30,264	25,793	175	101	57.7	11.1
押立文化センター	9,573	8,216	55	31	56.4	3.4
是政文化センター	23,775	20,154	137	76	55.5	8.3
住吉文化センター	26,897	22,715	154	95	61.7	10.4
片町文化センター	29,209	25,118	172	103	59.9	11.3
中央文化センター	43,682	37,050	252	154	61.1	16.8
新町文化センター	25,825	22,124	152	103	67.8	11.3
武蔵台文化センター	13,985	12,081	83	56	67.5	6.1
西府文化センター	19,097	15,848	110	69	62.7	7.5
四谷文化センター	14,282	11,681	80	46	57.5	5.0
計	259,375	219,869	1,500	914	60.9	100.0

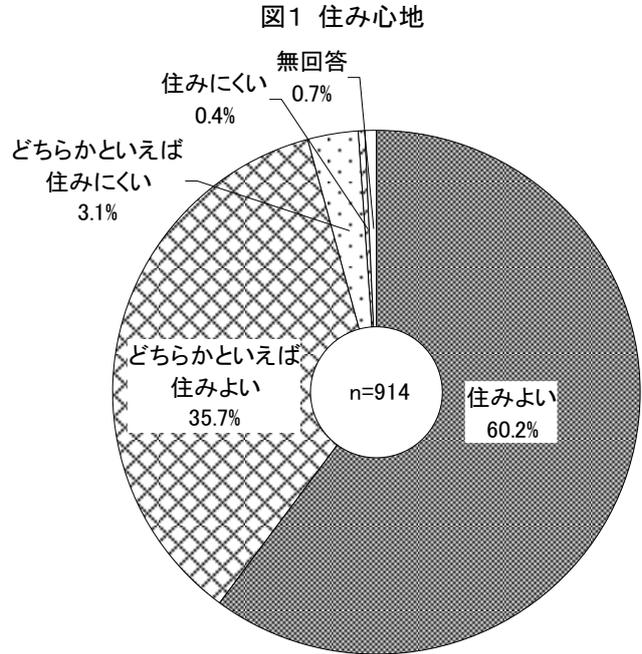
上記対象者は、令和5年4月1日現在の満18歳以上の人口である。

【住み心地】について

■府中市は住みよいところだと感じるか(n=914)

「住みよい」と「どちらかといえば住みよい」を合わせると、9割台半ばが『府中市は住みよい』と感じている。

「住みよい」(60.2%)と「どちらかといえば住みよい」(35.7%)を合わせた『住みよいと感じる』(95.9%)割合は、9割台半ばとなっている。また、「住みにくい」(0.4%)と「どちらかといえば住みにくい」(3.1%)を合わせた『住みにくいと感じる』割合は、3.5%となっている。



『住みよいと感じる』割合は、年代別にみると、「18～29歳」(99.0%)で最も高く、「60～69歳」(94.1%)で最も低くなっている。年度別にみると、9割台を維持している。

図2 住み心地(年代別)

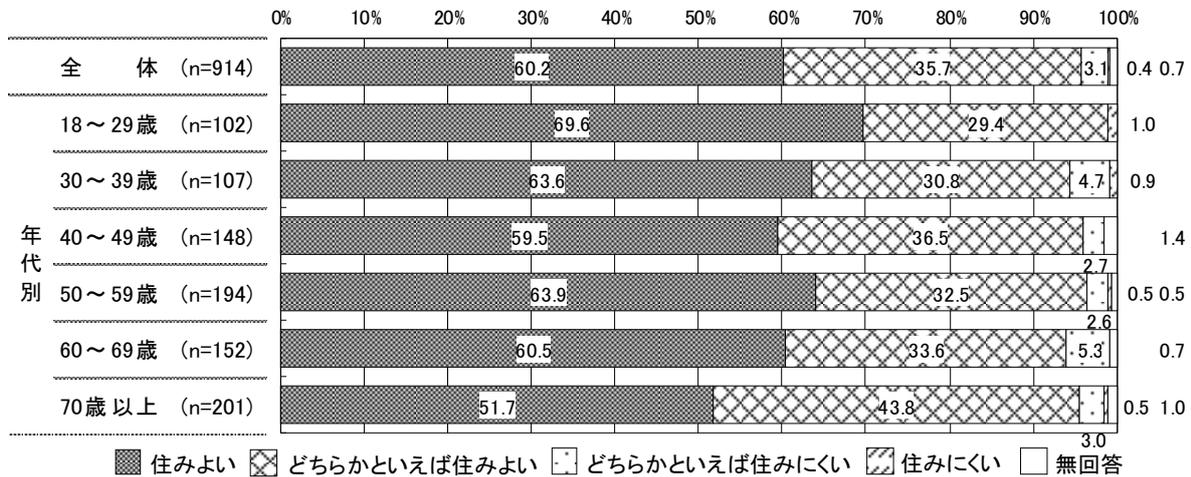
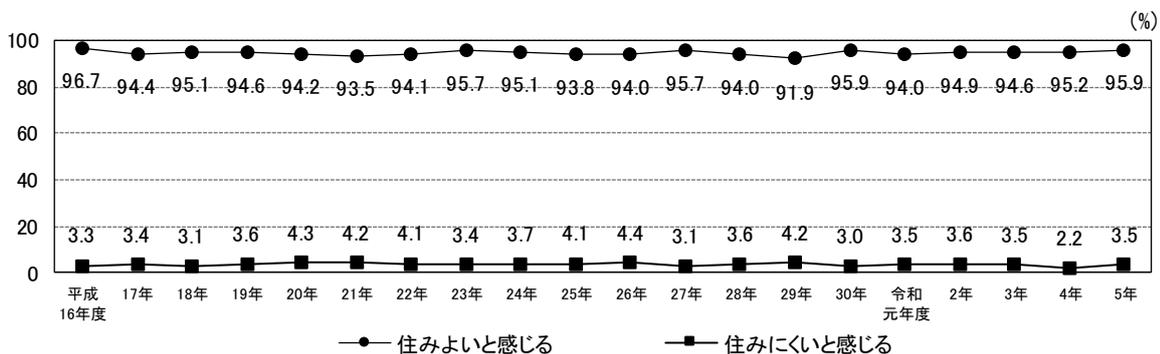


図3 住み心地(年度別)



【住まいの環境】について

■身近な住まいの環境についての感想(n=914)

「非常によい」と「まあよい」を合わせた『よいと感じる』住まいの環境は、「緑の豊かさ」、「風通し、日当たり」「日常の買い物の便」の順となっている。「あまりよくない」と「非常に悪い」を合わせた『よくないと感じる』住まいの環境は、「蚊やハエの発生の防止」、「騒音や振動の防止」、同率で「日常の買い物の便」「交通安全対策」の順となっている。

図4 住まいの環境

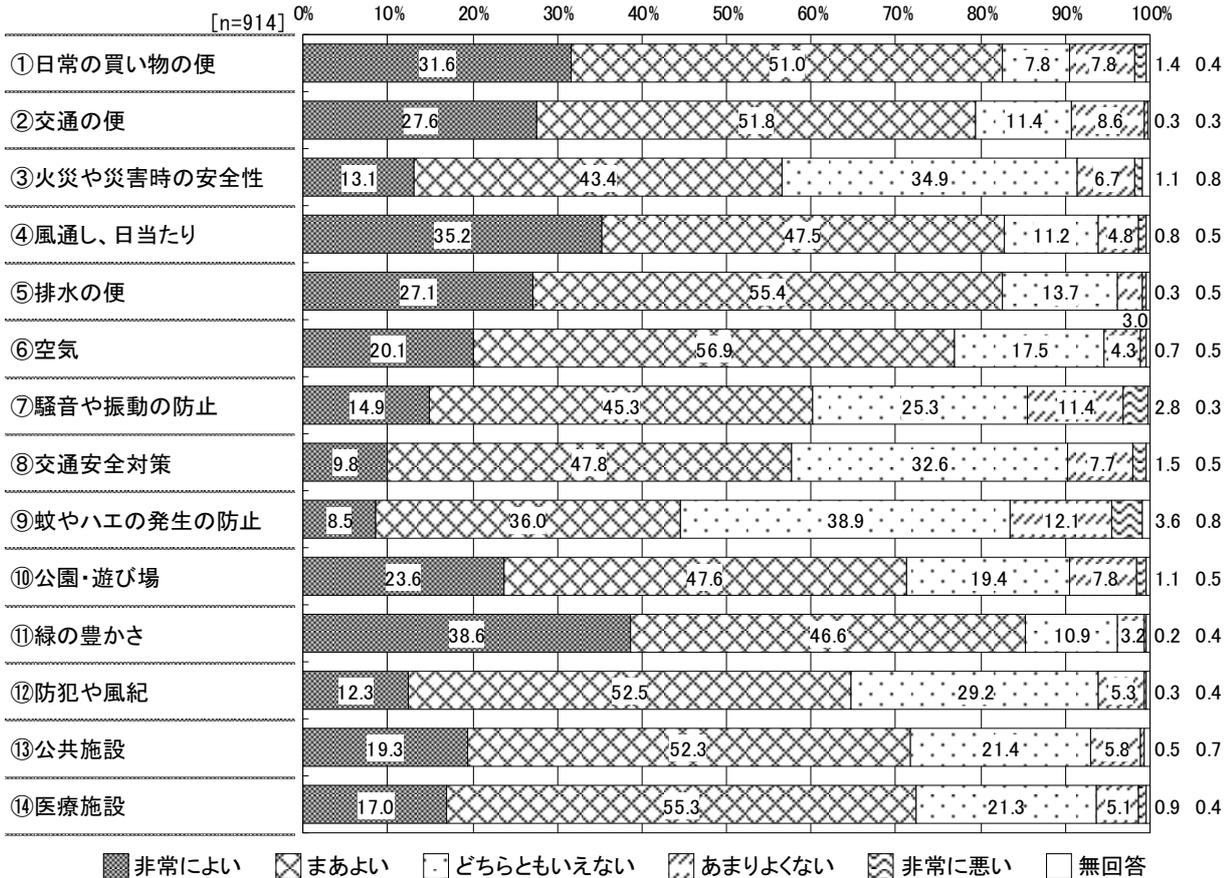


表1 住まいの環境(順位)

＜『よいと感じる』順＞			＜『よくないと感じる』順＞		
順位	住まいの環境	よいと感じる (%)	順位	住まいの環境	よくないと感じる (%)
1位	⑪ 緑の豊かさ	85.2	1位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	15.7
2位	④ 風通し、日当たり	82.7	2位	⑦ 騒音や振動の防止	14.2
3位	① 日常の買い物の便	82.6	3位	① 日常の買い物の便	9.2
4位	⑤ 排水の便	82.5	3位	⑧ 交通安全対策	9.2
5位	② 交通の便	79.4	5位	② 交通の便	8.9
6位	⑥ 空気	77.0	5位	⑩ 公園・遊び場	8.9
7位	⑭ 医療施設	72.3	7位	③ 火災や災害時の安全性	7.8
8位	⑬ 公共施設	71.6	8位	⑬ 公共施設	6.3
9位	⑩ 公園・遊び場	71.2	9位	⑭ 医療施設	6.0
10位	⑫ 防犯や風紀	64.8	10位	④ 風通し、日当たり	5.6
11位	⑦ 騒音や振動の防止	60.2	10位	⑫ 防犯や風紀	5.6
12位	⑧ 交通安全対策	57.6	12位	⑥ 空気	5.0
13位	③ 火災や災害時の安全性	56.5	13位	⑪ 緑の豊かさ	3.4
14位	⑨ 蚊やハエの発生の防止	44.5	14位	⑤ 排水の便	3.3

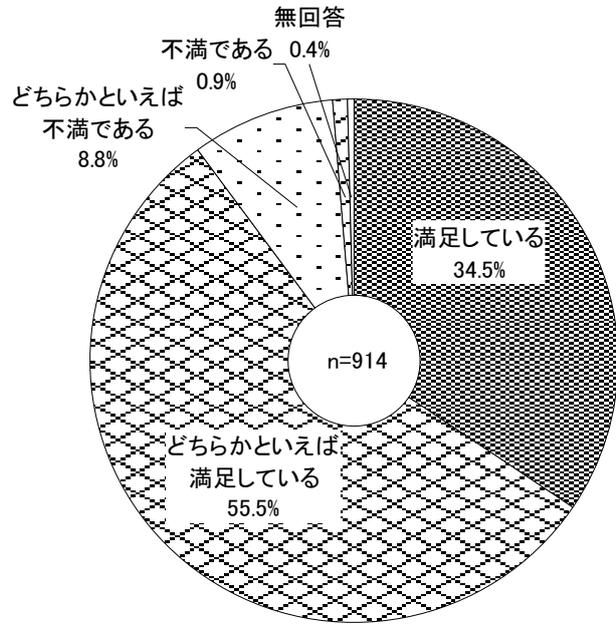
【生活の満足度】について

■現在の生活にどの程度満足しているか(n=914)

「満足している」と「どちらかといえば満足している」を合わせると、9割が『生活に満足している』と感じている。

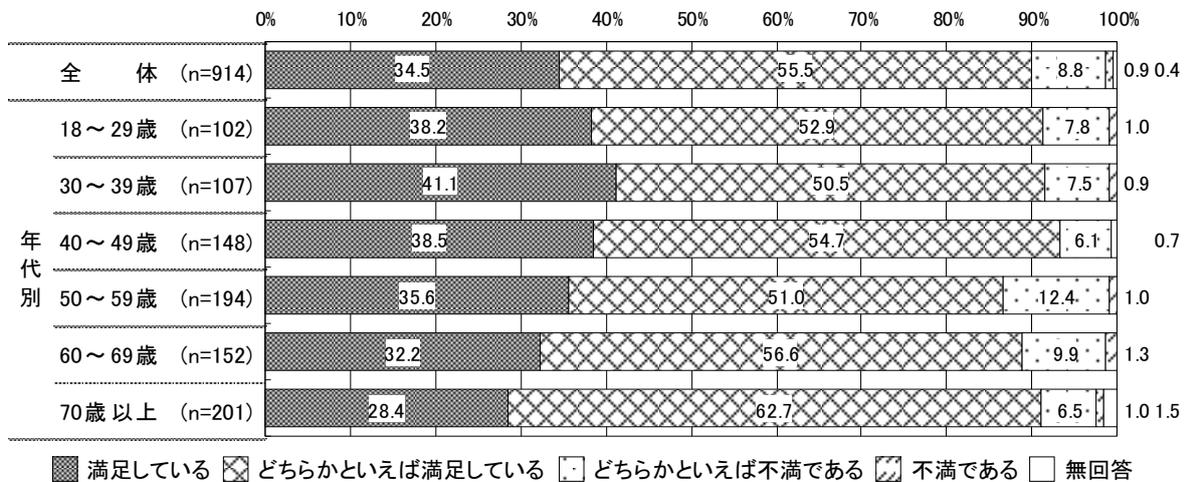
「満足している」(34.5%)と「どちらかといえば満足している」(55.5%)を合わせた『満足と感じている』(90.0%)割合は、9割となっている。一方、「不満である」(0.9%)と「どちらかといえば不満である」(8.8%)を合わせた『不満と感じている』(9.7%)割合は、約1割となっている。

図5 生活の満足度



『満足と感じている』割合は、年代別にみると、「40～49歳」(93.2%)で最も高く、「50～59歳」(86.6%)で最も低くなっている。

図6 生活の満足度(年代別)



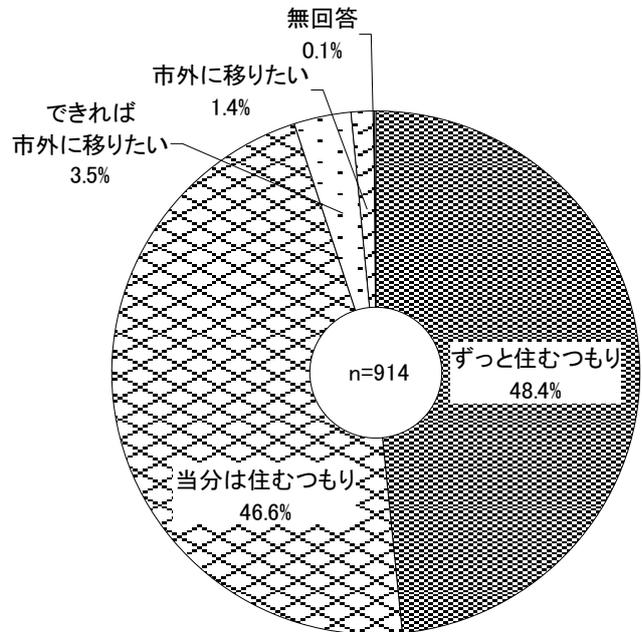
【定住意向】について

■今後も府中市に住み続けたいと思うか(n=914)

「ずっと住むつもり」と「当分は住むつもり」を合わせると、9割台半ばが『住み続けたい』と感じている。

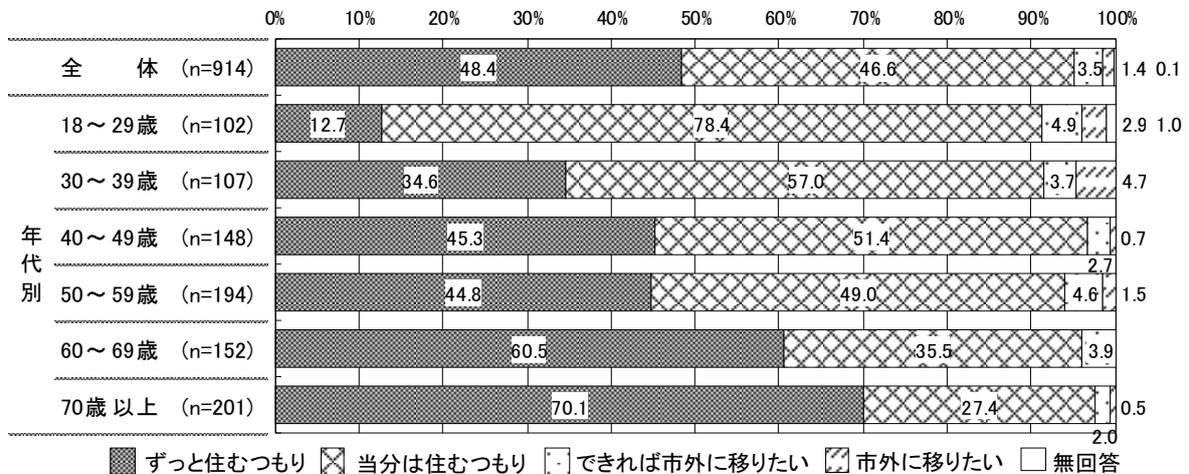
「ずっと住むつもり」(48.4%)と「当分は住むつもり」(46.6%)を合わせた『住み続けたいと感じている』(95.0%)割合は、9割台半ばとなっている。一方、「できれば市外に移りたい」(3.5%)と「市外に移りたい」(1.4%)を合わせた『市外に移りたいと感じている』割合は、4.9%となっている。

図7 定住意向



『住み続けたいと感じている』割合は、年代別にみると、「70歳以上」(97.5%)で最も高く、「18~29歳」(91.1%)で最も低くなっている。

図8 定住意向(年代別)



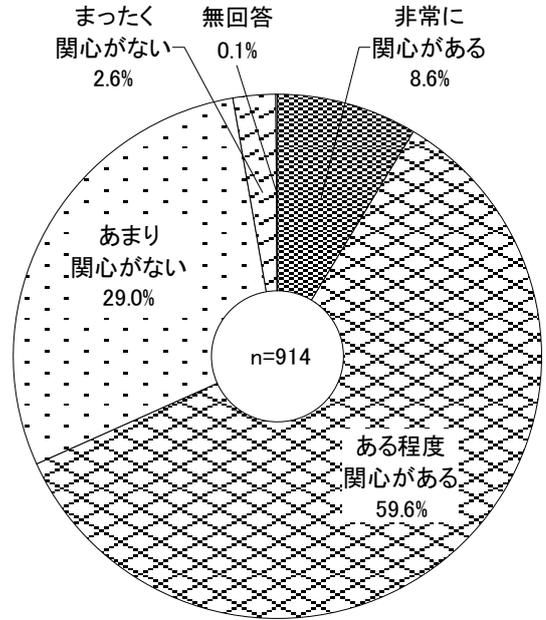
【市政に関する関心度】について

■市政にどの程度関心を持っているか(n=914)

「非常に関心がある」と「ある程度関心がある」を合わせると、7割近くが市政に関心を持っている。

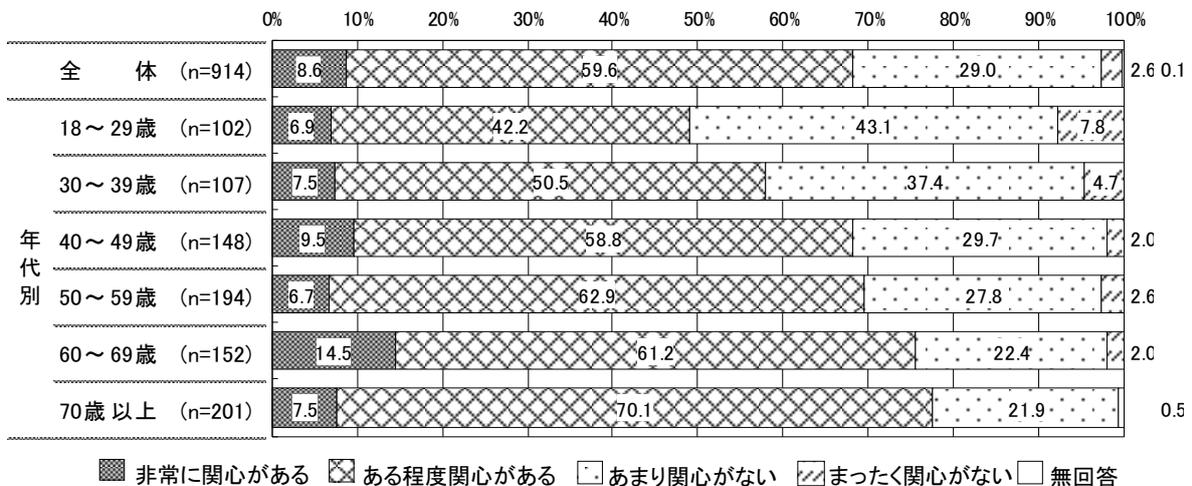
図9 市政に関する関心度

「非常に関心がある」(8.6%)と「ある程度関心がある」(59.6%)を合わせた『市政に関心がある』(68.2%)割合は、7割近くとなっている。「まったく関心がない」(2.6%)と「あまり関心がない」(29.0%)を合わせた『市政に関心がない』(31.6%)割合は、3割を超えている。



『市政に関心がある』割合は、年代別にみると、「70歳以上」(77.6%)で最も高く、「18～29歳」(49.1%)で最も低くなっている。

図10 市政に関する関心度(年代別)

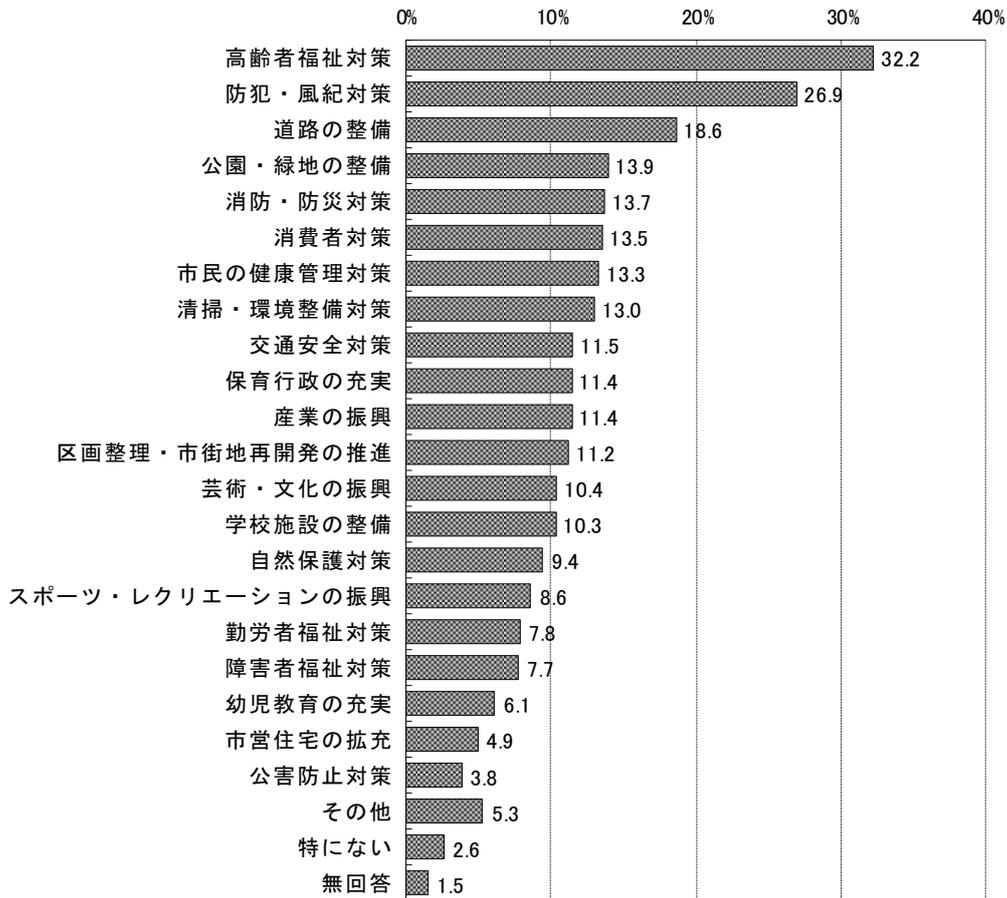


【市への要望】について

■府中市に対しこれから特に力を入れてほしいこと(n=914 複数回答)

市への要望は、「高齢者福祉対策」(32.2%)が最も高く、続いて「防犯・風紀対策」(26.9%)、「道路の整備」(18.6%)、「公園・緑地の整備」(13.9%)の順となっている。

図11 市への要望

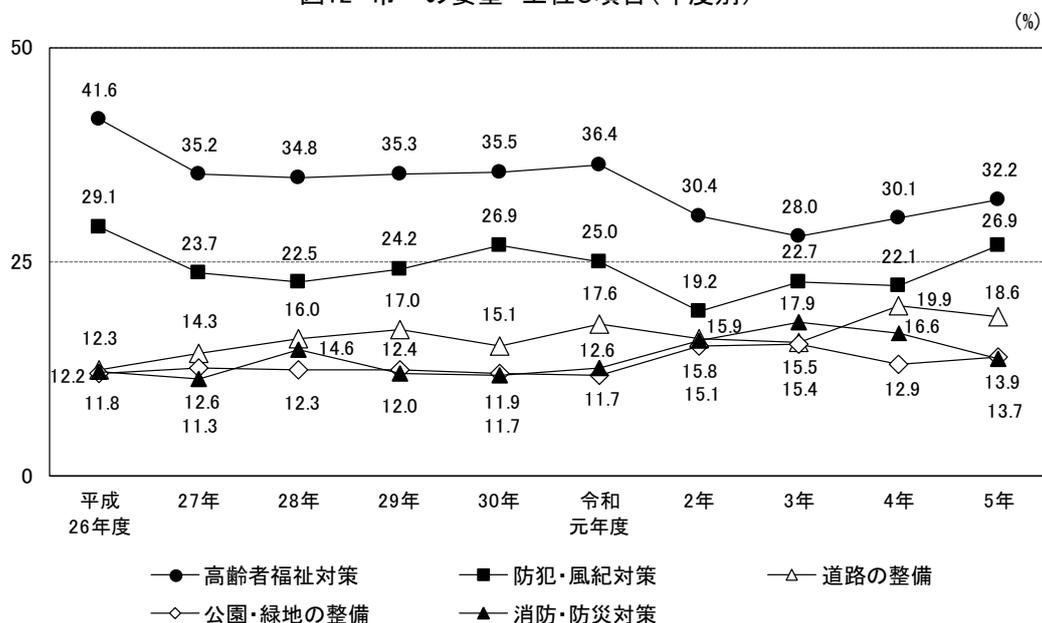


上位5項目について平成26年度からの順位変動をみると、今年度1位の「高齢者福祉対策」と2位の「防犯・風紀対策」の順位に変動はみられない。3位の「道路の整備」は平成27年度から常に上位5位に入っている。4位の「公園・緑地の整備」は今年度が初めてとなっている。5位の「消防・防災対策」は令和2年度から上位5位に入っており、昨年度から順位の変動はみられない。

表2 市への要望 上位5項目(年度別)

	n	1位	2位	3位	4位	5位
令和5年度	914	高齢者福祉対策 32.2%	防犯・風紀対策 26.9%	道路の整備 18.6%	公園・緑地の整備 13.9%	消防・防災対策 13.7%
4年	845	高齢者福祉対策 30.1%	防犯・風紀対策 22.1%	道路の整備 19.9%	消費者対策 17.5%	消防・防災対策 16.6%
3年	845	高齢者福祉対策 28.0%	防犯・風紀対策 22.7%	市民の健康管理対策 18.0%	消防・防災対策 17.9%	道路の整備 15.5%
2年	900	高齢者福祉対策 30.4%	防犯・風紀対策 19.2%	市民の健康管理対策 18.0%	道路の整備 15.9%	消防・防災対策 15.8%
元年	992	高齢者福祉対策 36.4%	防犯・風紀対策 25.0%	道路の整備 17.6%	交通安全対策 17.1%	市民の健康管理対策 16.3%
平成30年度	1021	高齢者福祉対策 35.5%	防犯・風紀対策 26.9%	市民の健康管理対策 17.8%	学校施設の整備 15.3%	道路の整備／ 清掃・環境整備対策 15.1%
29年	1103	高齢者福祉対策 35.3%	防犯・風紀対策 24.2%	市民の健康管理対策 17.4%	道路の整備 17.0%	保育行政の充実 15.4%
28年	996	高齢者福祉対策 34.8%	防犯・風紀対策 22.5%	市民の健康管理対策 19.7%	保育行政の充実 18.6%	道路の整備 16.0%
27年	824	高齢者福祉対策 35.2%	防犯・風紀対策 23.7%	市民の健康管理対策 18.4%	清掃・環境整備対策 15.7%	道路の整備／ 保育行政の充実 14.3%
26年	844	高齢者福祉対策 41.6%	防犯・風紀対策 29.1%	市民の健康管理対策 18.5%	清掃・環境整備対策 16.1%	保育行政の充実 14.3%

図12 市への要望 上位5項目(年度別)

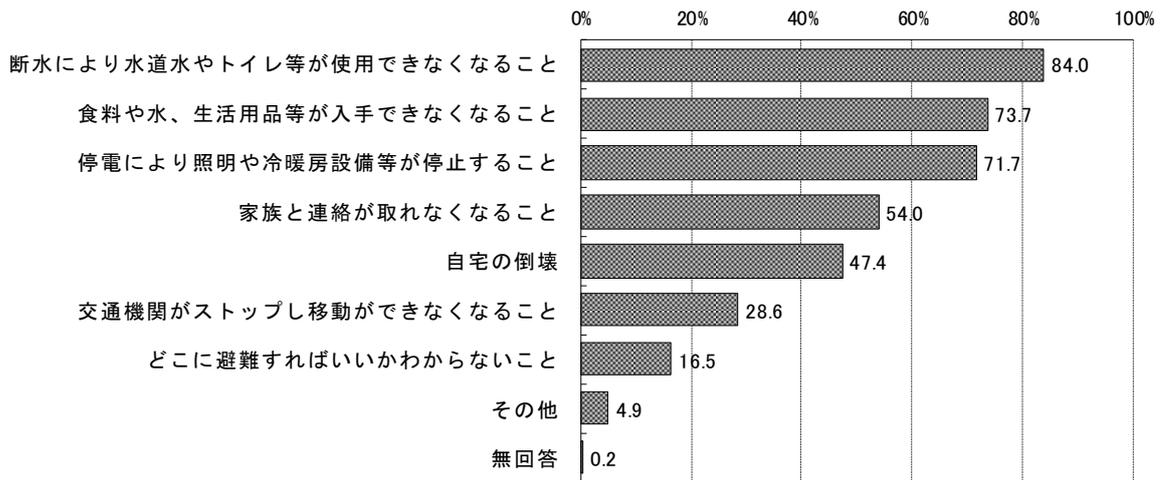


【防災の取組】について

■災害時に不安に思うこと(n=914 複数回答)

災害時に不安に思うことは、「断水により水道水やトイレ等が使用できなくなること」(84.0%)が最も高く、続いて「食料や水、生活用品等が入手できなくなること」(73.7%)、「停電により照明や冷暖房設備等が停止すること」(71.7%)、「家族と連絡が取れなくなること」(54.0%)の順となっている。

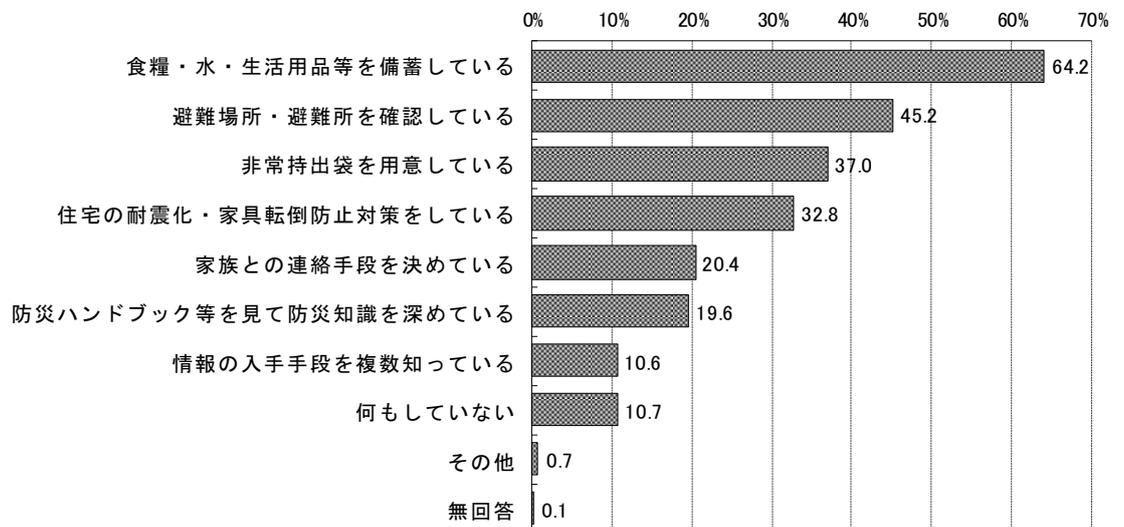
図13 災害時に不安に思うこと



■防災への取組について(n=914 複数回答)

防災のために取り組んでいることは、「食糧・水・生活用品等を備蓄している」(64.2%)が最も高く、続いて「避難場所・避難所を確認している」(45.2%)、「非常持出袋を用意している」(37.0%)の順となっている。

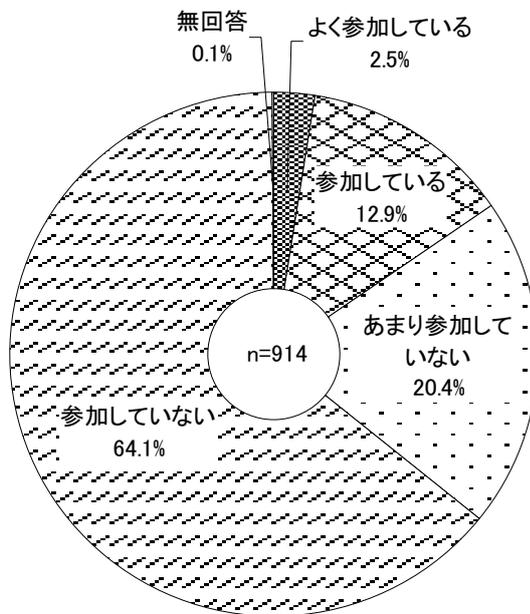
図14 防災への取組



■防災活動への参加状況(n=914)

地域の防災活動への参加状況は、「参加していない」(64.1%)が最も高くなっている。「参加していない」と「あまり参加していない」(20.4%)を合わせた『参加していない』(84.5%)割合は、8割以上となっており、「よく参加している」(2.5%)と「参加している」(12.9%)を合わせた『参加している』(15.4%)割合は、1割台半ばとなっている。

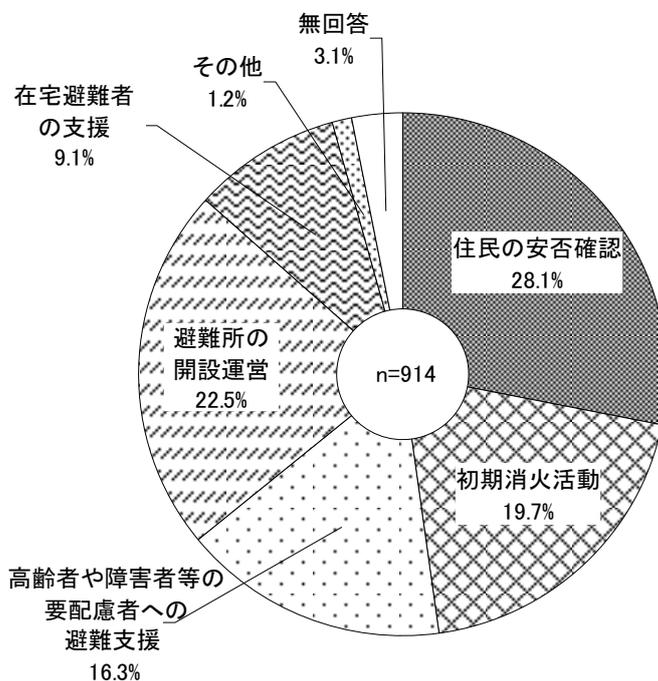
図15 防災活動への参加状況



■地域の防災活動で大事だと思うこと(n=914)

地域の防災活動で大事だと思うことは、「住民の安否確認」(28.1%)が最も高く、続いて「避難所の開設運営」(22.5%)、「初期消火活動」(19.7%)、「高齢者や障害者等の要配慮者への避難支援」(16.3%)の順となっている。

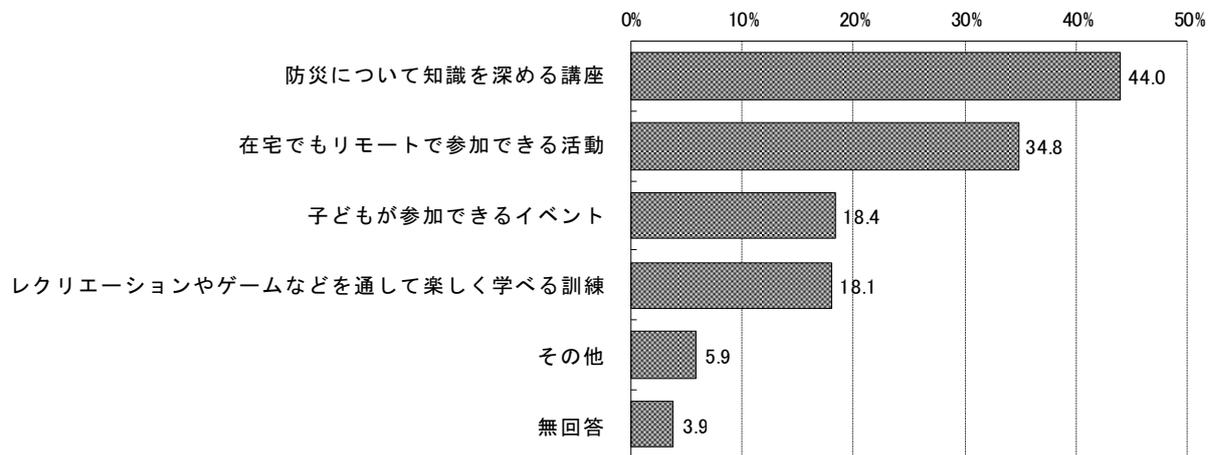
図16 地域の防災活動で大事だと思うこと



■参加したい防災活動(n=914 複数回答)

参加したい防災活動は、「防災について知識を深める講座」(44.0%)が最も高く、続いて「在宅でもリモートで参加できる活動」(34.8%)、「子どもが参加できるイベント」(18.4%)、「レクリエーションやゲームなどを通して楽しく学べる訓練」(18.1%)の順となっている。

図17 参加したい防災活動

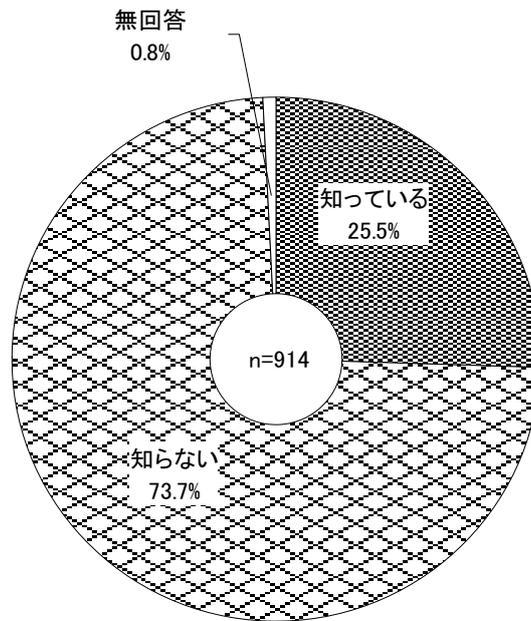


【障害者に対する差別・偏見】について

■「不当な差別的取扱いの禁止」及び「合理的配慮の提供」の認知度(n=914)

「不当な差別的取扱いの禁止」及び「合理的配慮の提供」の認知度は、「知らない」(73.7%)が7割以上を占めている。「知っている」(25.5%)は2割台半ばとなっている。

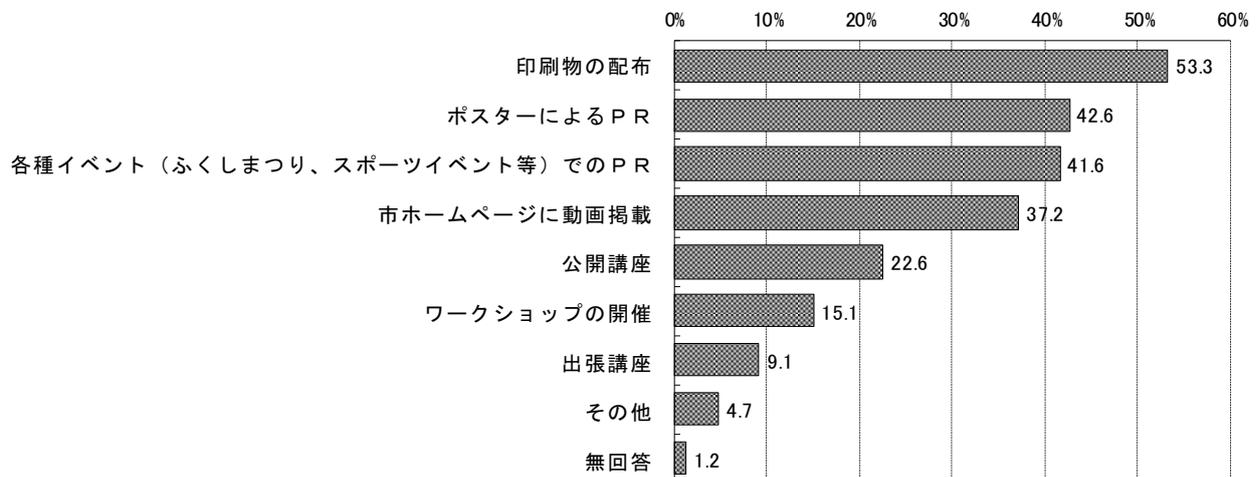
図18 「不当な差別的取扱いの禁止」及び「合理的配慮の提供」の認知度



■伝わりやすい普及啓発方法(n=914 複数回答)

障害者差別の解消に向けた普及啓発をするにあたり伝わりやすいと思う啓発方法は、「印刷物の配布」(53.3%)が最も高く、続いて「ポスターによるPR」(42.6%)、「各種イベント(ふくしまつり、スポーツイベント等)でのPR」(41.6%)、「市ホームページに動画掲載」(37.2%)の順となっている。

図19 伝わりやすい普及啓発方法

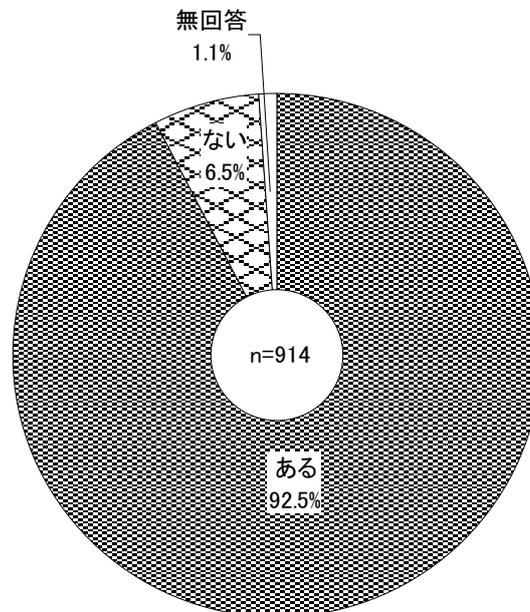


【こころの健康】について

■気を休められるタイミングや場所について(n=914)

気を休められるタイミングや場所の有無について、「ある」(92.5%)は9割以上を占め、「ない」は6.5%となっている。

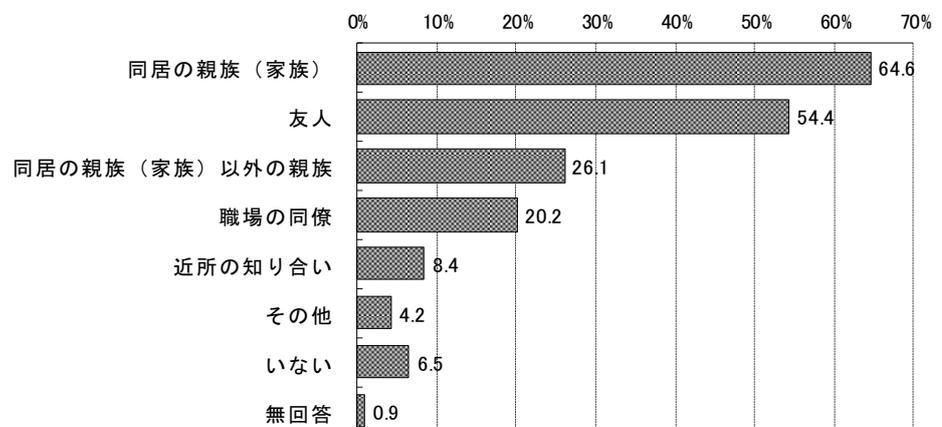
図20 気を休められるタイミングや場所の有無



■悩みに耳を傾けてくれる人について(n=914 複数回答)

不満や悩みに対して耳を傾けてくれる人は、「同居の親族(家族)」(64.6%)が最も高く、続いて「友人」(54.4%)、「同居の親族(家族)以外の親族」(26.1%)、「職場の同僚」(20.2%)の順となっている。一方、「いない」は6.5%となっている。

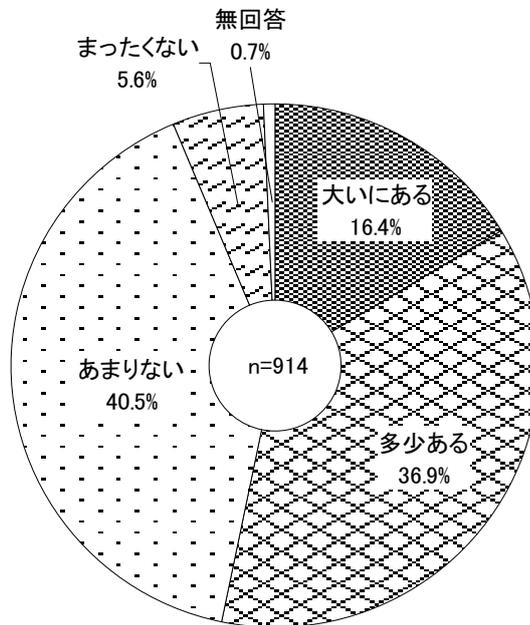
図21 不満や悩みに対して耳を傾けてくれる人



■悩みやストレスについて(n=914)

日常生活の不満、悩み、苦勞、ストレスについて、「大いにある」(16.4%)と「多少ある」(36.9%)を合わせた『ある』(53.3%)は5割を超え、「まったくない」(5.6%)と「あまりない」(40.5%)を合わせた『ない』(46.1%)は4割台半ばとなっている。

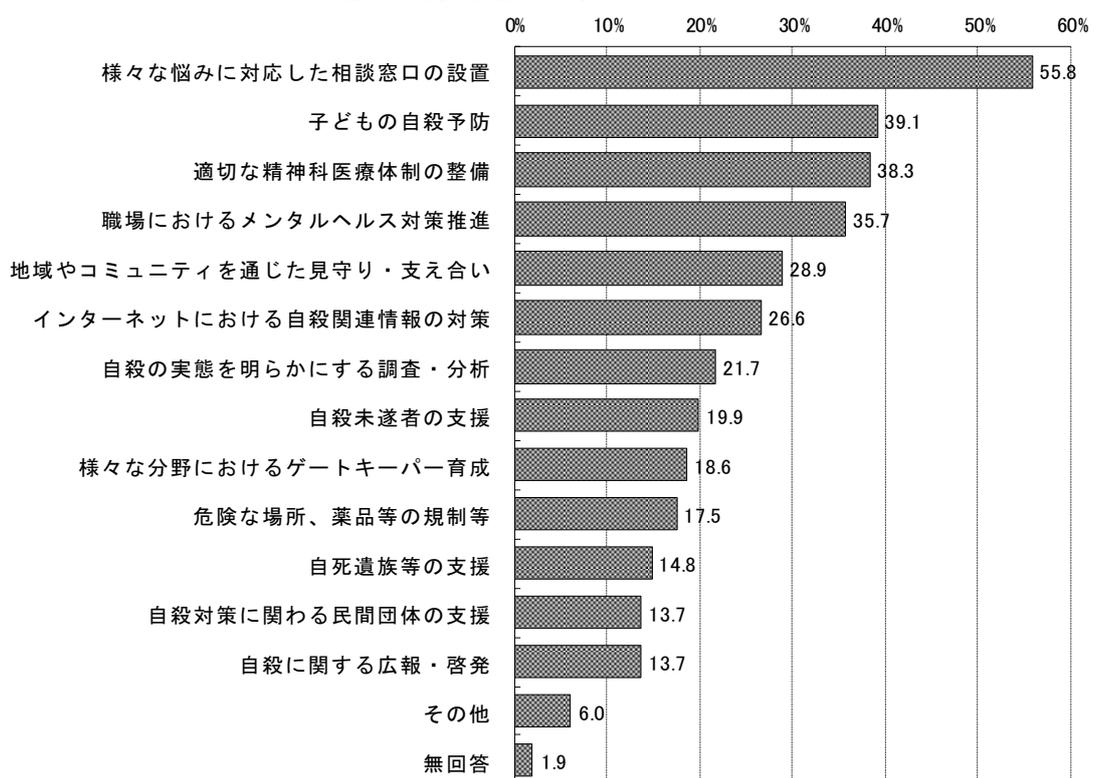
図22 ストレスの有無



■必要な自殺対策(n=914 複数回答)

必要と考える自殺対策は、「様々な悩みに対応した相談窓口の設置」(55.8%)が最も高く、続いて「子どもの自殺予防」(39.1%)、「適切な精神科医療体制の整備」(38.3%)、「職場におけるメンタルヘルス対策推進」(35.7%)の順となっている。

図23 必要な自殺対策

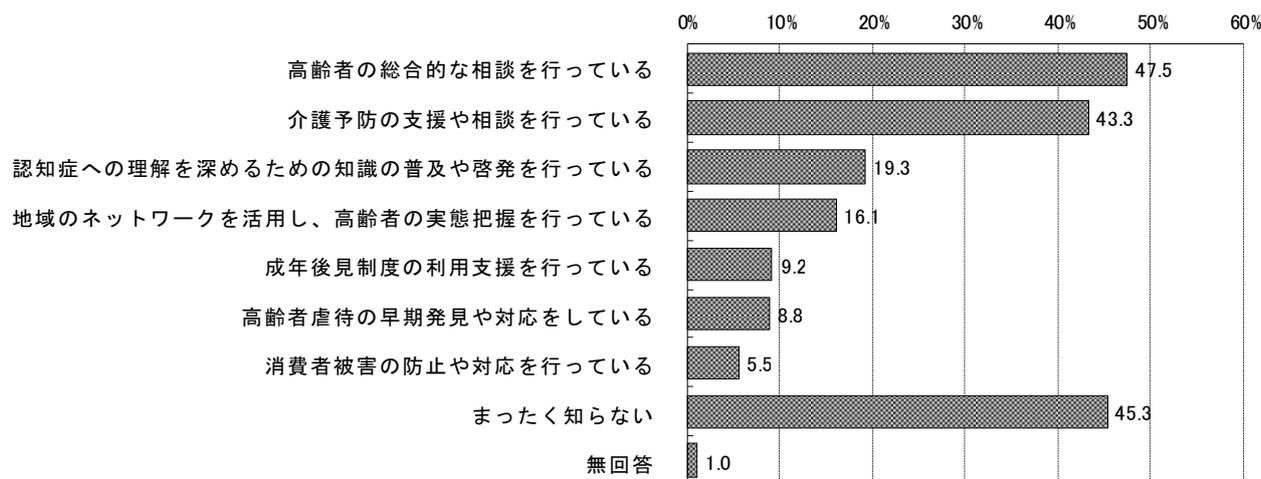


【地域包括支援センター】について

■地域包括支援センターの役割や機能について(n=914 複数回答)

知っている地域包括支援センターの役割や機能は、「高齢者の総合的な相談を行っている」(47.5%)が最も高く、続いて「介護予防の支援や相談を行っている」(43.3%)、「認知症への理解を深めるための知識の普及や啓発を行っている」(19.3%)、「地域のネットワークを活用し、高齢者の実態把握を行っている」(16.1%)の順となっている。一方、「まったく知らない」(45.3%)は4割台半ばとなっている。

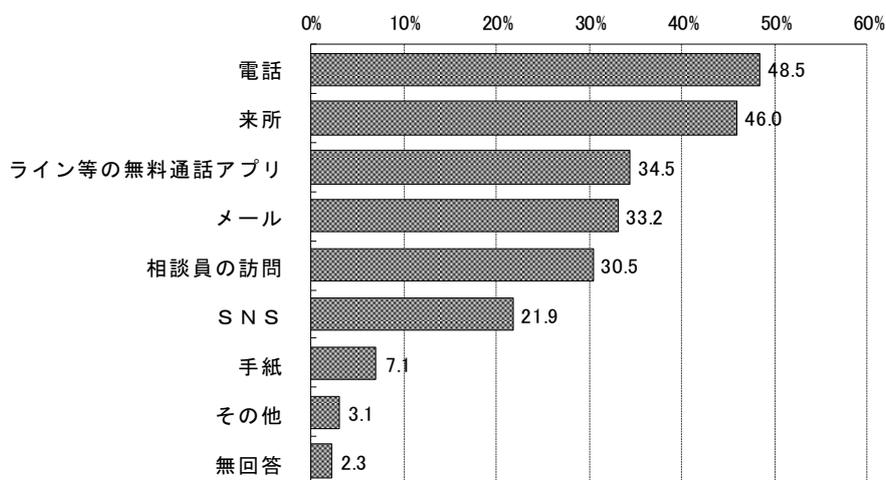
図24 知っている地域包括支援センターの役割や機能



■相談がしやすいと思う方法(n=914 複数回答)

地域包括支援センターに相談がしやすいと思う方法は、「電話」(48.5%)が最も高く、続いて「来所」(46.0%)、「ライン等の無料通話アプリ」(34.5%)、「メール」(33.2%)の順となっている。

図25 相談がしやすいと思う方法



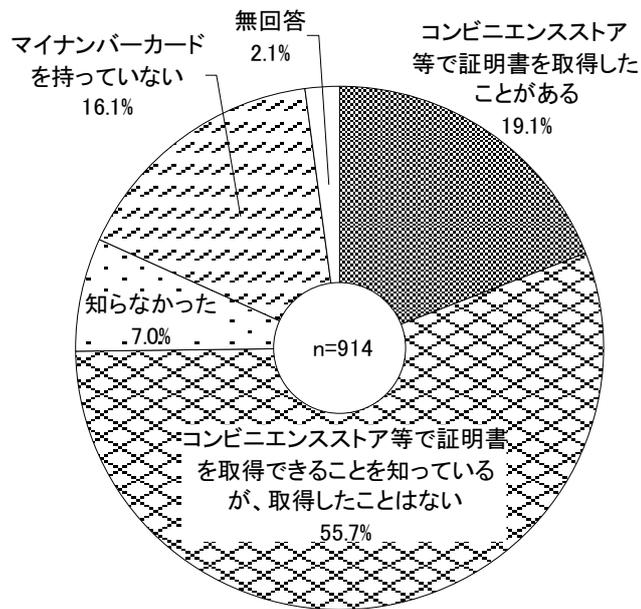
【証明書等のコンビニ交付とマイナンバーカード申請促進】

について

■コンビニ交付について(n=914)

コンビニ交付について、「コンビニエンスストア等で証明書を取得できることを知っているが、取得したことはない」(55.7%)が最も高く、続いて「コンビニエンスストア等で証明書を取得したことがある」(19.1%)、「マイナンバーカードを持っていない」(16.1%)、「知らなかった」(7.0%)の順となっている。

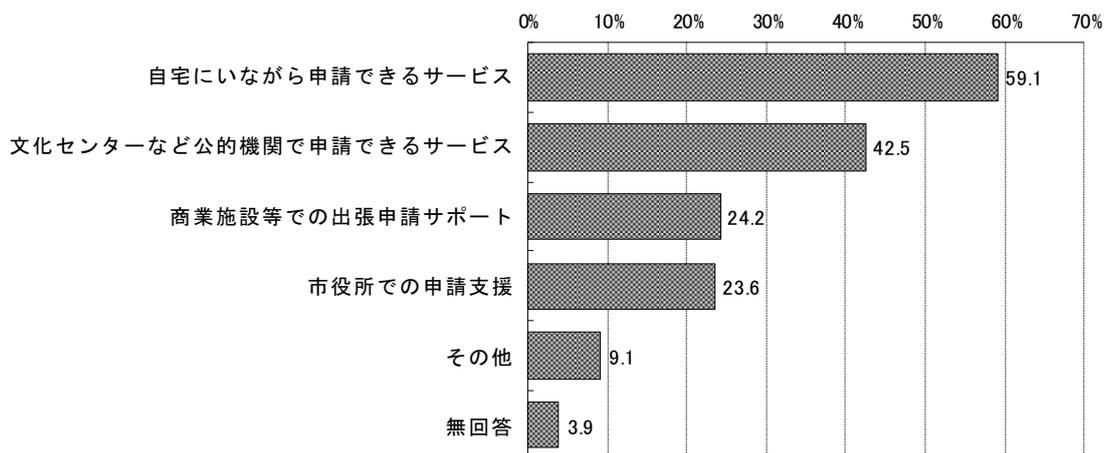
図26 コンビニ交付について



■マイナンバーカードの申請機会を増やすための取組(n=914 複数回答)

申請機会を増やすために必要な市の取組は、「自宅にしながら申請できるサービス」(59.1%)が最も高く、続いて「文化センターなど公的機関で申請できるサービス」(42.5%)、「商業施設等での出張申請サポート」(24.2%)、「市役所での申請支援」(23.6%)の順となっている。

図27 申請機会を増やすために必要な市の取組



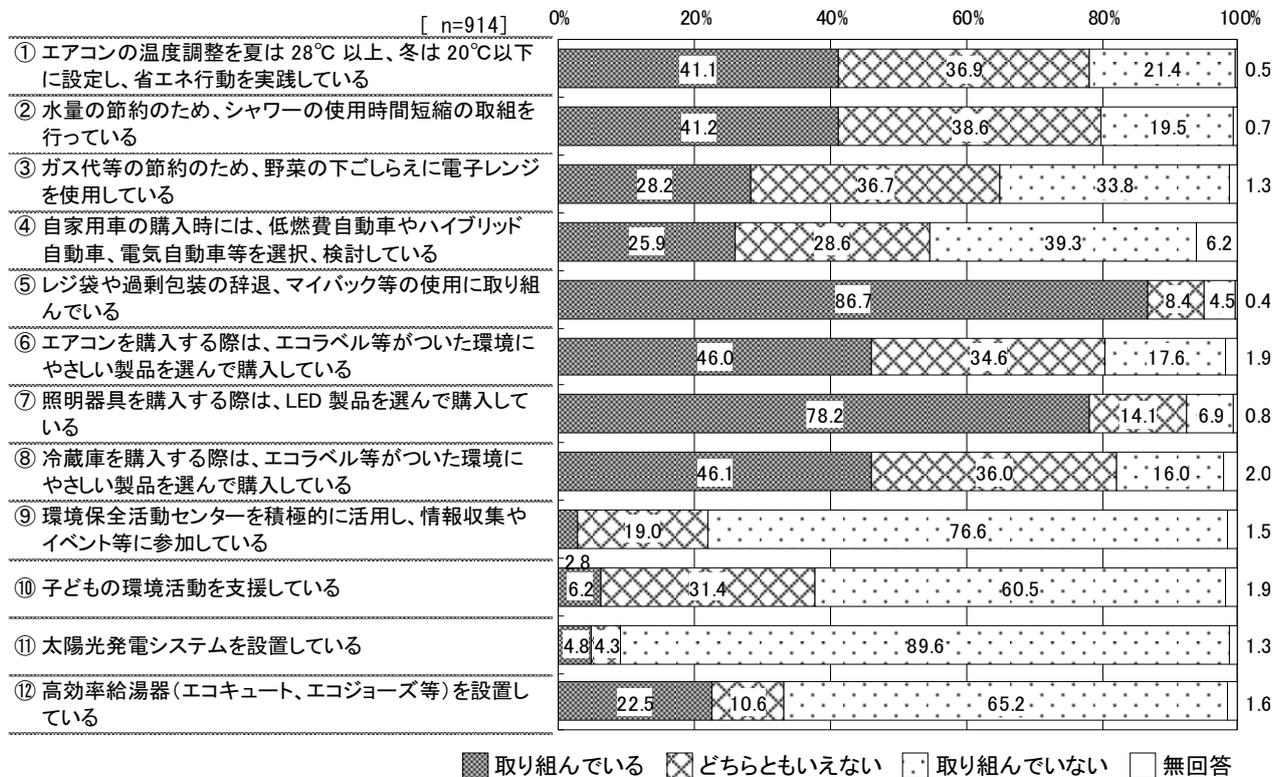
【環境に関する取組】について

■環境に関する取組 (n=914)

環境に関する取組について、「取り組んでいる」は、「⑤レジ袋や過剰包装の辞退、マイバック等の使用に取り組んでいる」(86.7%)が最も高く、続いて「⑦照明器具を購入する際は、LED製品を選んで購入している」(78.2%)、「⑧冷蔵庫を購入する際は、エコラベル等がついた環境にやさしい製品を選んで購入している」(46.1%)の順となっている。

「取り組んでいない」は、「⑪太陽光発電システムを設置している」(89.6%)が最も高く、続いて「⑨環境保全活動センターを積極的に活用し、情報収集やイベント等に参加している」(76.6%)、「⑫高効率給湯器(エコキュート、エコジョーズ等)を設置している」(65.2%)の順となっている。

図28 環境に関する取組

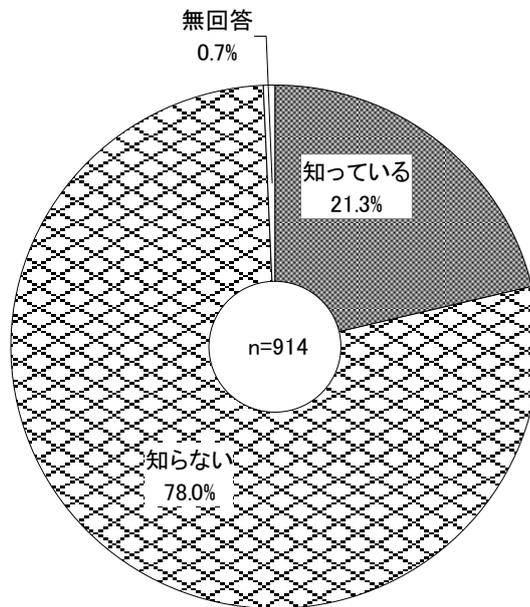


【飼い主のいない猫対策】について

■「飼い主のいない猫」対策の認知度 (n=914)

「飼い主のいない猫」対策の認知度は、「知らない」(78.0%)が8割近くとなっている。

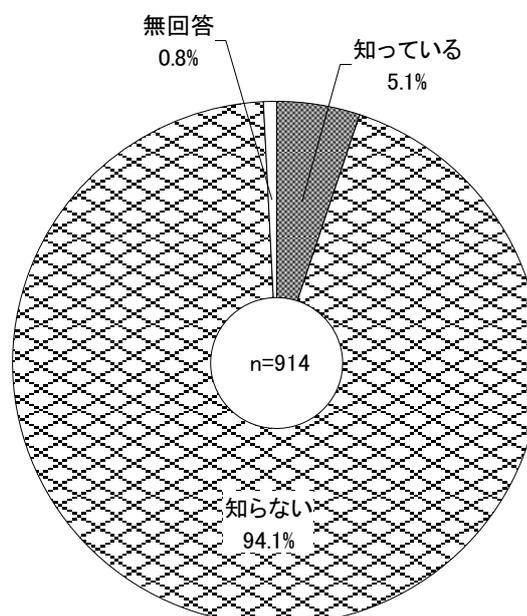
図29 「飼い主のいない猫」対策の認知度



■『府中市「飼い主のいない猫」対策ガイドライン』の認知度 (n=914)

『府中市「飼い主のいない猫」対策ガイドライン』の認知度は、「知らない」(94.1%)が9割以上を占めている。「知っている」は5.1%となっている。

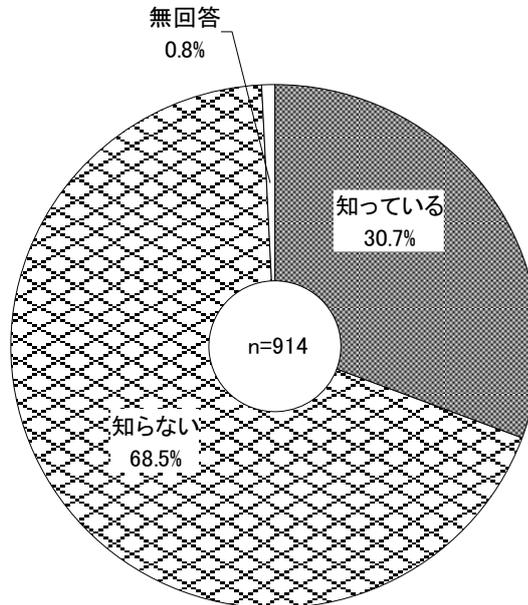
図30 『府中市「飼い主のいない猫」対策ガイドライン』の認知度



■「飼い主のいない猫」の問題に取り組んでいるボランティアの認知度 (n=914)

「飼い主のいない猫」の問題にボランティアとして取り組んでいる個人・団体について、「知らない」(68.5%)が7割近くとなっており、「知っている」(30.7%)が約3割となっている。

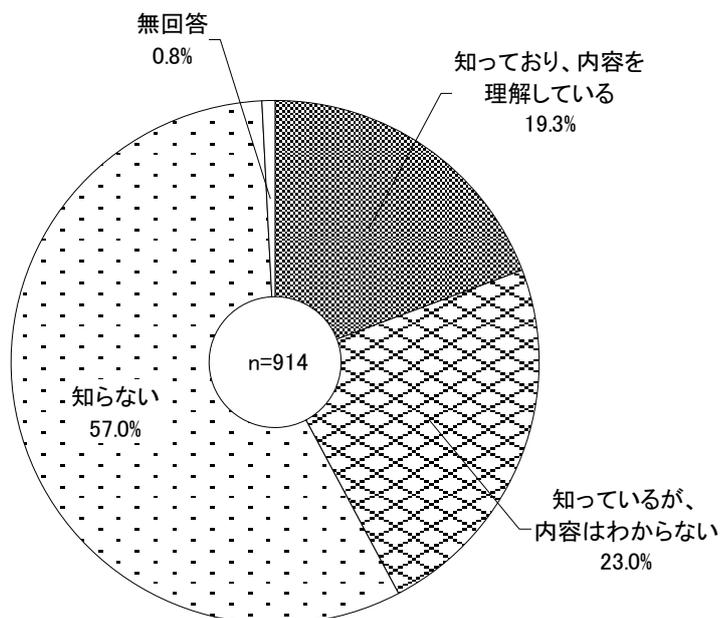
図31 ボランティアの認知度



■「地域猫活動」の認知度 (n=914)

「地域猫活動」について、「知らない」(57.0%)が最も高く、続いて「知っているが、内容はわからない」(23.0%)、「知っており、内容を理解している」(19.3%)の順となっている。

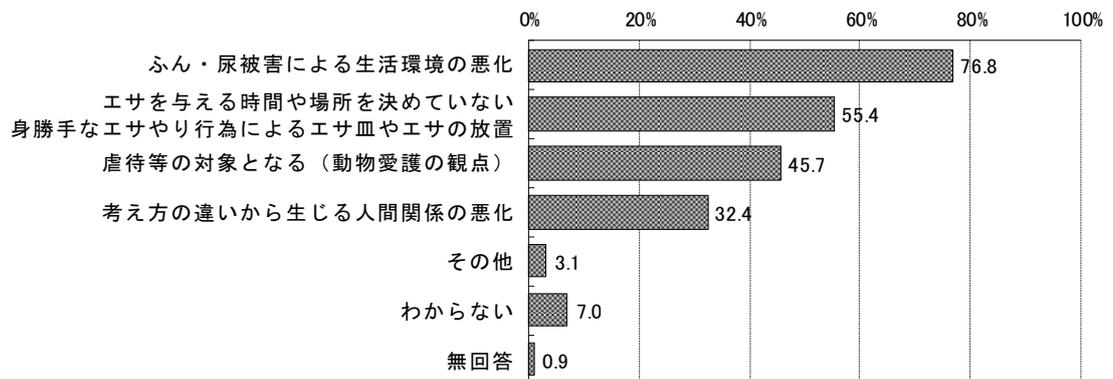
図32 「地域猫活動」の認知度



■「飼い主のいない猫」がもたらす問題(n=914 複数回答)

「飼い主のいない猫」がもたらす問題は、「ふん・尿被害による生活環境の悪化」(76.8%)が最も高く、続いて「エサを与える時間や場所を決めていない身勝手なエサやり行為によるエサ皿やエサの放置」(55.4%)、「虐待等の対象となる(動物愛護の観点)」(45.7%)、「考え方の違いから生じる人間関係の悪化」(32.4%)の順となっている。

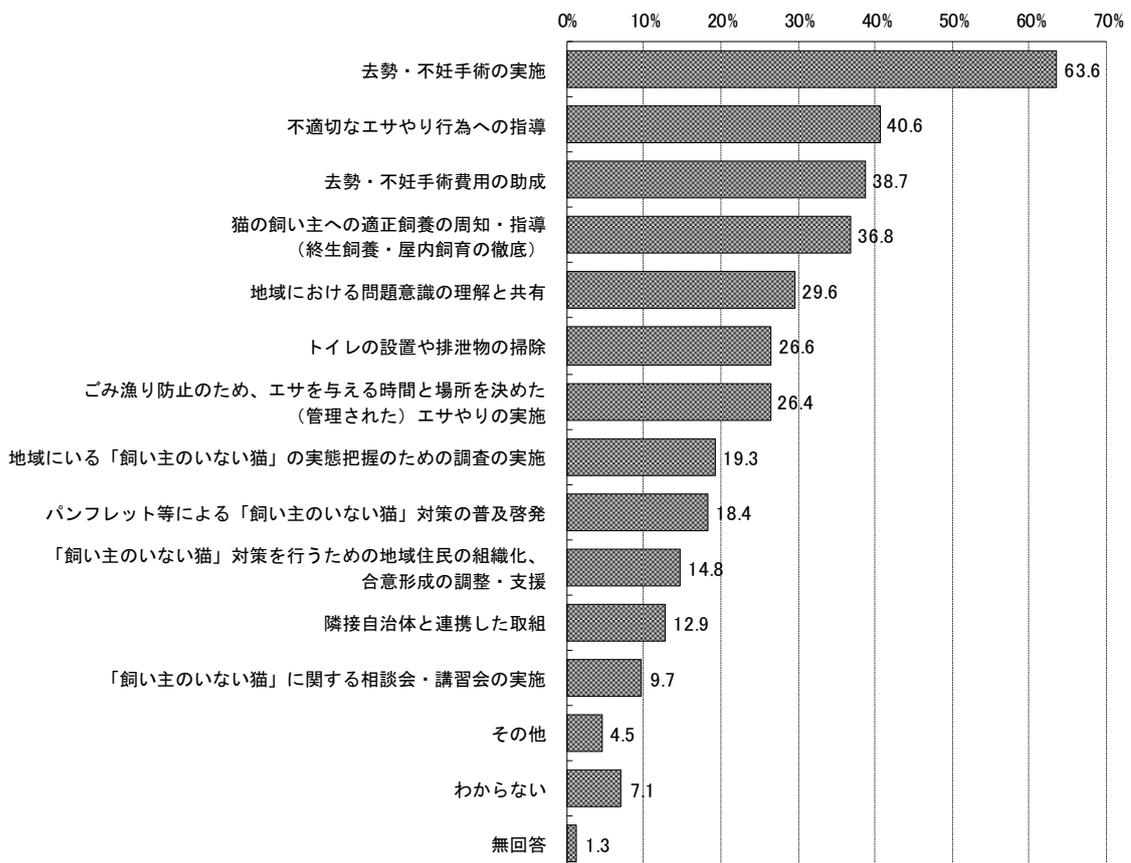
図33 「飼い主のいない猫」がもたらす問題



■有効だと思う「飼い主のいない猫」対策(n=914 複数回答)

有効だと思う「飼い主のいない猫」対策は、「去勢・不妊手術の実施」(63.6%)が最も高く、続いて「不適切なエサやり行為への指導」(40.6%)、「去勢・不妊手術費用の助成」(38.7%)、「猫の飼い主への適正飼養の周知・指導(終生飼養・屋内飼育の徹底)」(36.8%)の順となっている。

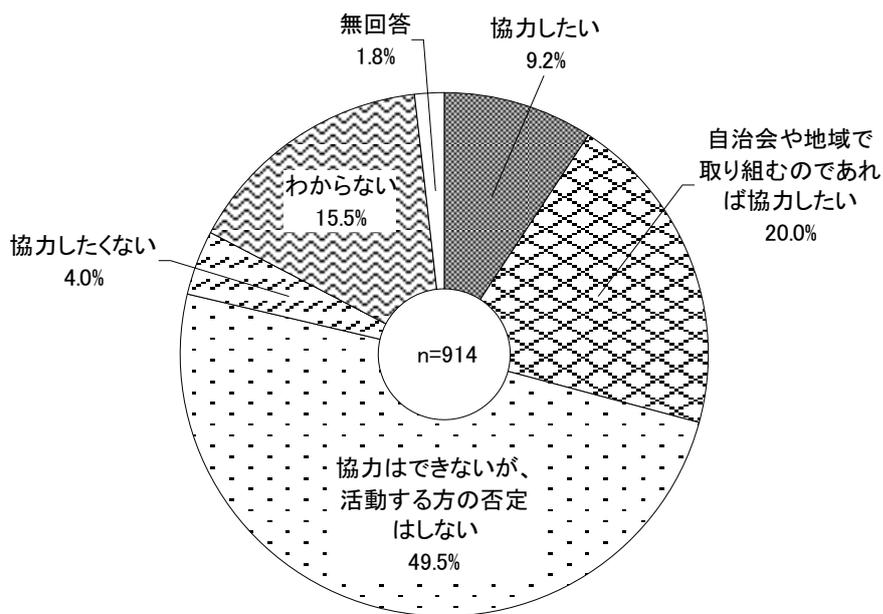
図34 有効だと思う「飼い主のいない猫」対策



■「飼い主のいない猫」対策への協力について(n=914)

「飼い主のいない猫」対策への協力について、「協力はできないが、活動する方の否定はしない」(49.5%)が最も高く、続いて「自治会や地域で取り組むのであれば協力したい」(20.0%)、「協力したい」(9.2%)、「協力したくない」(4.0%)の順となっている。「わからない」(15.5%)は1割台半ばとなっている。

図35 「飼い主のいない猫」対策への協力

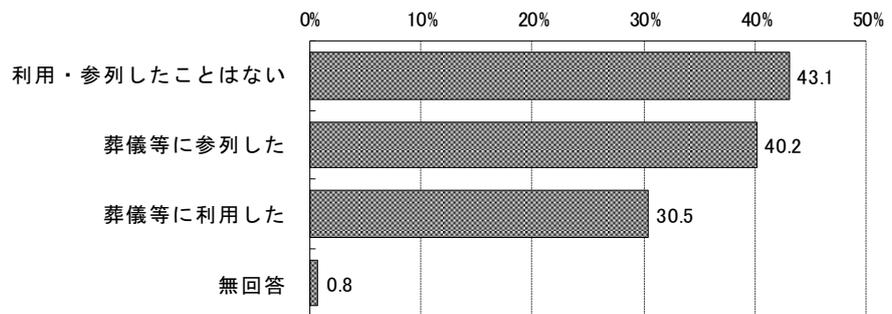


【府中の森市民聖苑】について

■府中の森市民聖苑の利用状況(n=914 複数回答)

府中の森市民聖苑の利用状況は、「利用・参列したことはない」(43.1%)が最も高く、続いて「葬儀等に参列した」(40.2%)、「葬儀等に利用した」(30.5%)の順となっている。

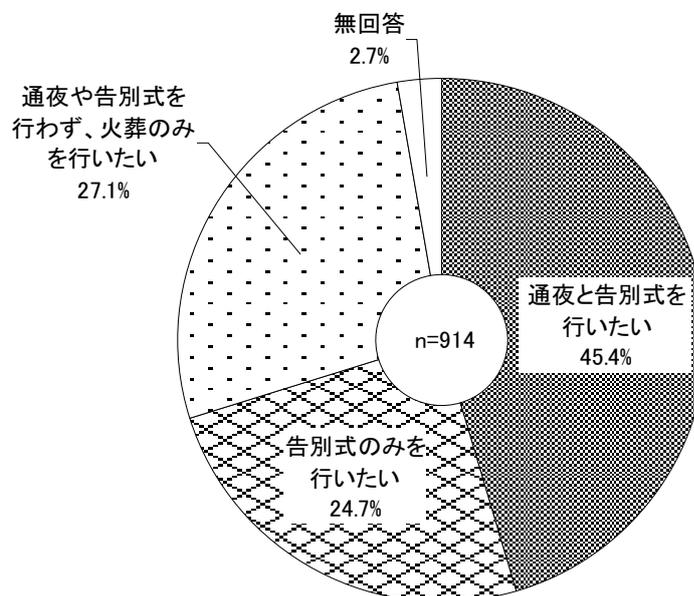
図36 府中の森市民聖苑の利用状況



■葬儀の形態、会葬者について(n=914)

ご家族(あるいは近親者)の葬儀を行う場合に行いたい葬儀の形態は、「通夜と告別式を行いたい」(45.4%)が最も高く、続いて「通夜や告別式を行わず、火葬のみを行いたい」(27.1%)、「告別式のみを行いたい」(24.7%)の順となっている。

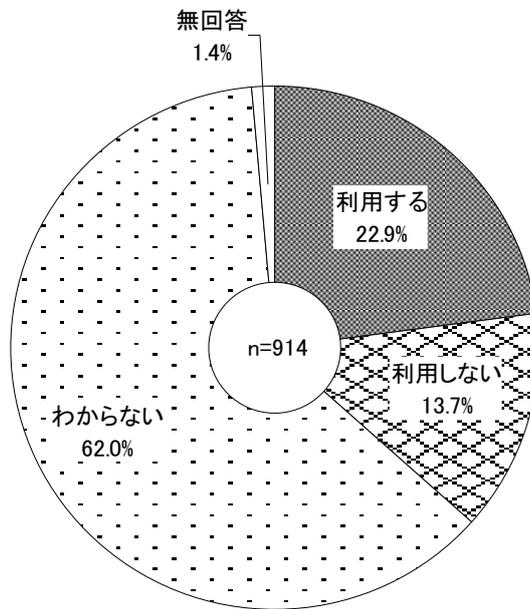
図37 今後行いたい葬儀の形態



■法要での府中の森市民聖苑の利用について(n=914)

法要での府中の森市民聖苑の利用について、「わからない」(62.0%)が最も高く、続いて「利用する」(22.9%)、「利用しない」(13.7%)の順となっている。

図38 府中の森市民聖苑の利用について

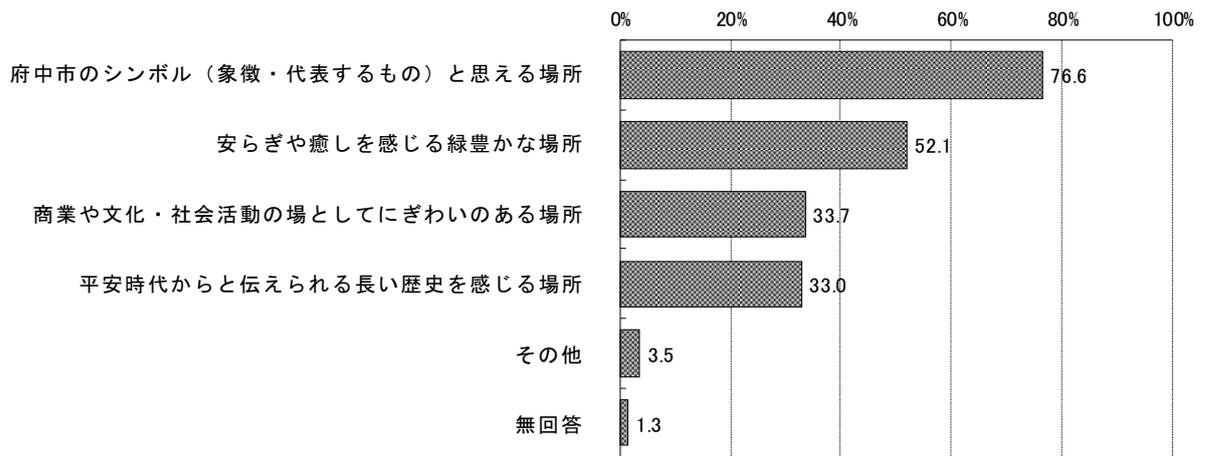


【国天然記念物「馬場大門のケヤキ並木」】について

■ケヤキ並木について(n=914 複数回答)

ケヤキ並木について、「府中市のシンボル（象徴・代表するもの）と思える場所」（76.6%）が最も高く、続いて「安らぎや癒しを感じる緑豊かな場所」（52.1%）、「商業や文化・社会活動の場としてにぎわいのある場所」（33.7%）、「平安時代からと伝えられる長い歴史を感じる場所」（33.0%）の順となっている。

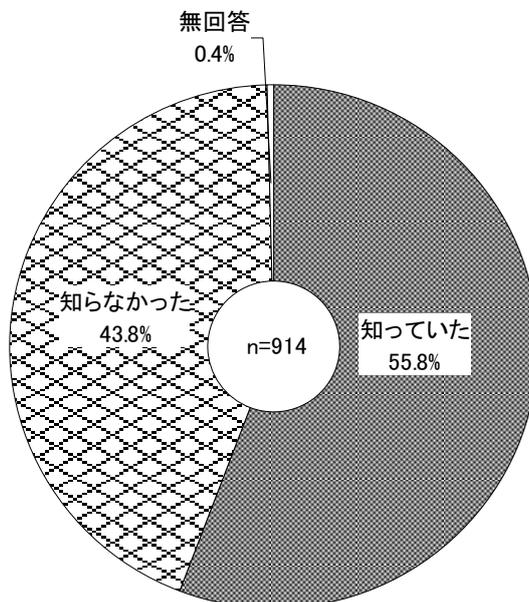
図39 ケヤキ並木について



■ケヤキ並木が国の天然記念物(文化財)であることの認知度(n=914)

ケヤキ並木が国の天然記念物（文化財）であることの認知度は、「知っていた」（55.8%）が5割台半ば、「知らなかった」（43.8%）は4割を超えている。

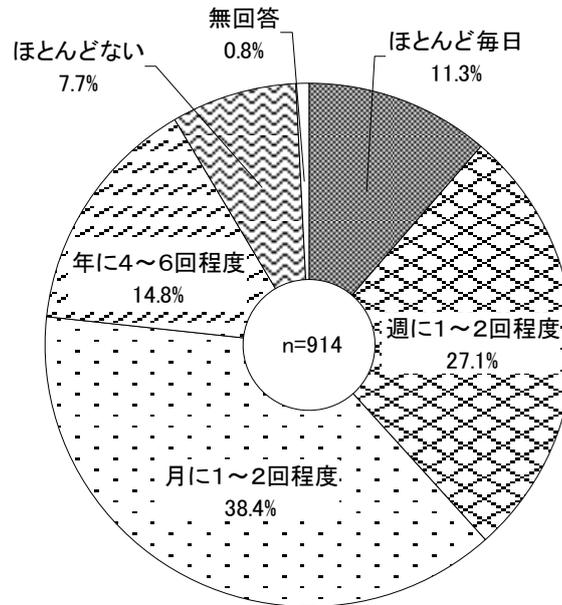
図40 天然記念物(文化財)としての認知度



■通行頻度(n=914)

ケヤキ並木の通行頻度は、「月に1～2回程度」(38.4%)が最も高く、続いて「週に1～2回程度」(27.1%)、「年に4～6回程度」(14.8%)の順となっている。

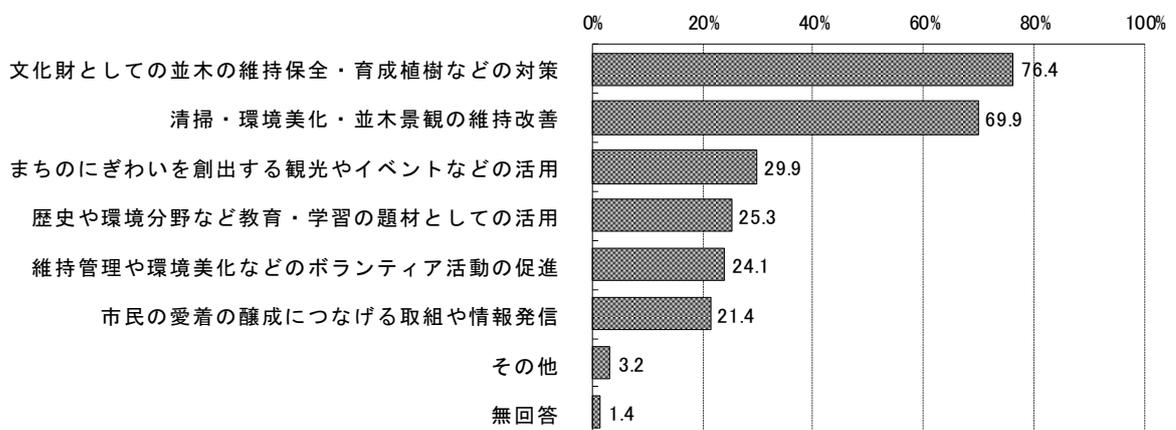
図41 通行頻度



■力を入れて欲しい取組(n=914 複数回答)

特に力を入れて取り組んでほしいことは、「文化財としての並木の維持保全・育成植樹などの対策」(76.4%)が最も高く、続いて「清掃・環境美化・並木景観の維持改善」(69.9%)、「まちのにぎわいを創出する観光やイベントなどの活用」(29.9%)、「歴史や環境分野など教育・学習の題材としての活用」(25.3%)の順となっている。

図42 力を入れて欲しい取組

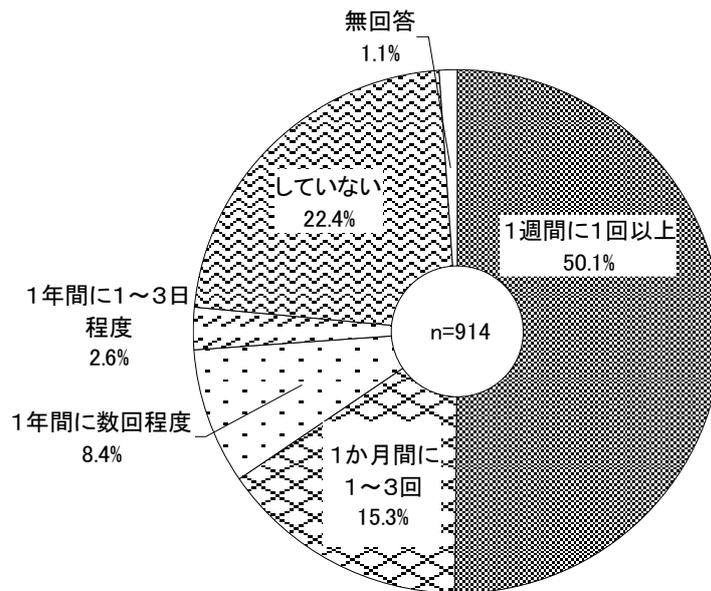


【スポーツ・運動】について

■1年間に行ったスポーツや運動の頻度(n=914)

1年間に行ったスポーツや運動の頻度は、「1週間に1回以上」(50.1%)が最も高く、続いて「1か月間に1～3回」(15.3%)、「1年間に数回程度」(8.4%)の順となっている。一方、「していない」(22.4%)は2割以上となっている。

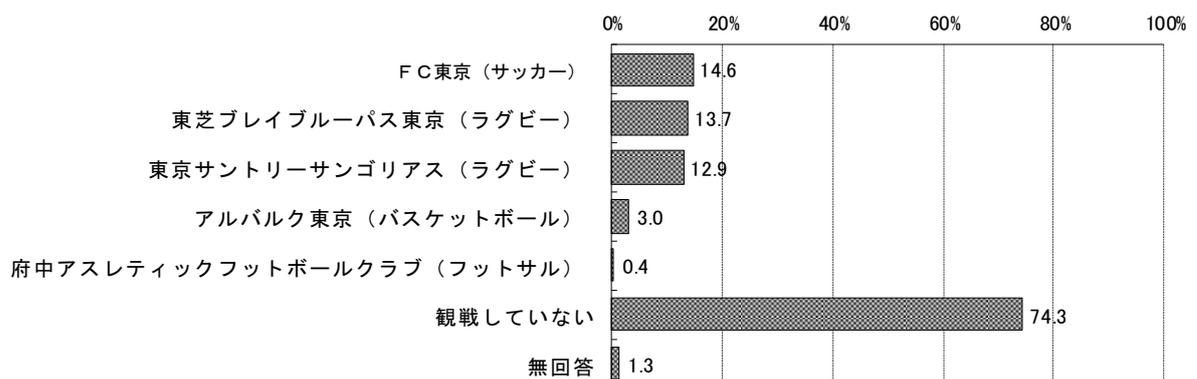
図43 1年間に行ったスポーツや運動の頻度



■1年間での観戦したことがある府中市を拠点に活動するトップチームについて (n=914 複数回答)

この1年間で観戦(TVでの観戦、練習観戦も含む)したことがある府中市を拠点に活動するトップチームは、「FC東京(サッカー)」(14.6%)が最も高く、続いて「東芝ブレイブルーパス東京(ラグビー)」(13.7%)、「東京サントリーサンゴリアス(ラグビー)」(12.9%)、「府中アスレティックフットボールクラブ(フットサル)」(0.4%)の順となっている。一方、「観戦していない」(74.3%)は7割台半ばとなっている。

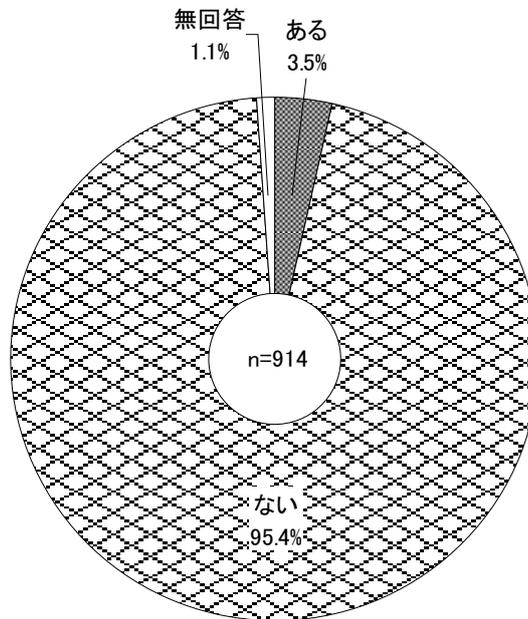
図44 1年間での観戦したことがある府中市を拠点に活動するトップチーム



■1年間に行ったスポーツに関するボランティア活動の有無(n=914)

1年間に行ったスポーツに関するボランティア活動の有無は、「ない」(95.4%)が9割台半ばを占めており、「ある」は3.5%となっている。

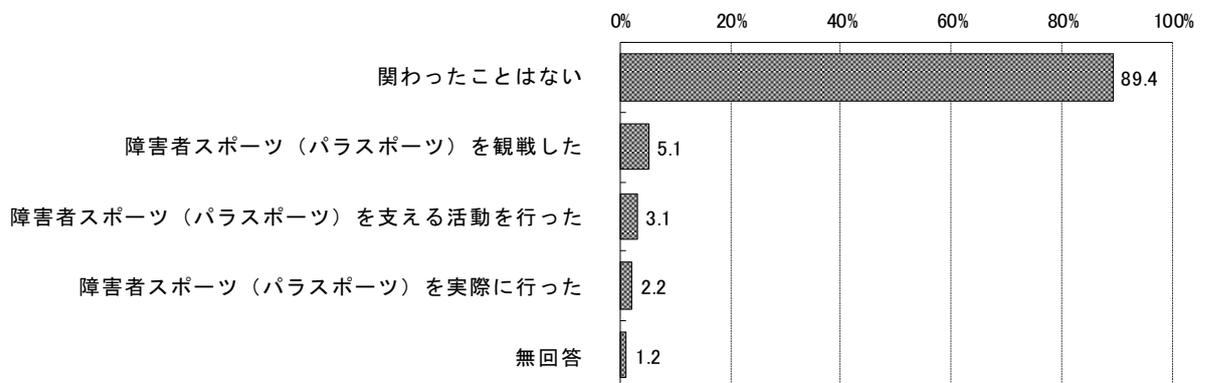
図45 スポーツに関するボランティア活動の有無



■障害者スポーツ(パラスポーツ)との関わり(n=914 複数回答)

障害者スポーツ(パラスポーツ)との関わりは、「関わったことはない」(89.4%)が約9割を占めている。

図46障害者スポーツ(パラスポーツ)との関わり



第 55 回 市政世論調査

令和 5 年 9 月

発行：府中市市民協働推進部広聴相談課

東京都府中市宮西町二丁目24番地

Tel 042-366-1711

実施：株式会社タイム・エージェント

東京都渋谷区円山町 6 番 8 号

Tel 03-3770-6821